

平成8年度厚生省心身障害研究
「生涯を通じた女性の健康づくりに関する研究」

メディアの性に関する情報が若年者に与える影響
ーテレクラおよび性風俗に関する研究ー

(分担研究：女性からみた妊娠、出産に関する研究)

分担研究者 北村邦夫 (日本家族計画協会クリニック)
協力研究者 岩室紳也 (神奈川県秦野保健所保健予防課)

【要約】

テレクラ、伝言ダイヤル、等は中学生から20歳代の若者に急速に浸透している。男性はそれらにアクセスするには料金がかかり、利用する目的は相手とのセックスを含めた直接のアプローチであり、援助交際を望んでいる人も少なくなかった。女性はアクセスに費用はかからず、暇つぶしや好奇心が多く、テレクラをコミュニケーションや遊びの手段としてとらえていることが明らかになった。テレクラが諸悪の根源というとらえ方ではなく、テレクラでの会話の実際等を踏まえながら、起こり得る被害を想定した情報伝達が必要であると思われた。

性風俗業界は顧客向け及び求人の情報誌を発行するほど利用者と従事者が多いことが明らかになった。また、従業員もSTDに関しては情報を必要としているものの、その入手経路が乏しく、これからの対応が必要であると思われた。

若者のセックスに対する意識はオープンである一方で正しい情報を得ていないことが明らかになった。若者がセックスをするという前提で正しい情報伝達が必要であり、若者を理解する一助として若者へのインタビュービデオを作成した。

【見出し語】テレクラ、性風俗、性情報

【はじめに】

女性が妊娠、出産する際に障害となり得ることは少なくない。望まない、予期しない性体験、HIVをはじめとする性感染症、望まない妊娠、等々が考えられる。また、テレクラや風俗店が氾濫し大きな社会問題となっている。しかし、対策や教育を行う立場にある保健医療関係者や教育関係者はそれらの実態を詳しく認識しておらず、テレクラを規制する条例を制定したり、「テレクラに電話しないように」、「風俗店で働かないように」、といった総論的、抽象的な話や対策に終始している。今回、われわれは女性の妊娠、出産の障害となり得る可能性があるテレクラ、風俗営業店の実態、及び、若者の性、セックス、エイズに関する意識を調査し、今後、具体的な対策や指導をする際の資料やマニュアルとすることを目指した。

この研究は以下の柱からなる。

1. テレクラへの関心、アクセスの実態に関するアンケート調査
2. テレクラの利用に関する実態調査
 - ①テレクラ等の利用方法の実際
 - ②テレクラ利用者の実態
 - ③テレクラで知り合った相手とセックスをした事例
 - ④テレクラでの会話の実際
3. 性風俗の実態調査
4. 若者のセックスやエイズに関する意識調査

1. テレクラへの関心、アクセスの実態に関するアンケート調査

【目的】

テレクラに対する認識、関心、アクセス及び利用の実態について年代別の実態を把握し、テレクラによる若者への普及啓発活動の方法と問題点を明らかにする。

【方法】

神奈川県内の公立中学校3校、公立高校2校、短大生・大学生等、および大人（主に保健医療関係者〔保健所、病院〕、教員〔アンケート実施校、教員研修〕、等）に表1のアンケート調査を実施した。アンケートの信頼性を高めるため、回収時は折り畳んで、封筒等に入れ、集計はすべて研究班の協力者が行った。

【結果】

中学生667名、高校生653名、その他の学生235名、社会人217名の合計1772名から回答を得た。

中学1年生ではテレクラを知らないと答えたのは男子18%、女子5%であったが年齢と共に認知度が高まった。テレクラに電話をしようと思ったのは高校生までは女子の方が多く、大学生では男子の方が多かった。実際に電話をした経験は中学3年生の女子で35%、高校2年生女子で42%、大学生等の女子で33%であった。主に何人でかけるかは3人以上が多かった。30歳以上では電話をした経験をもつと答えた人はいなかった。テレクラに電話をした回数は複数回が多かった。テレクラで知り合った人と実際にあったと答えた女子は中学2年生から数人ずつ認められた。テレクラの情報を得る手段としては看板、ピラ、友人、雑誌が多かった。

【考察】

テレクラの認知度は中学生で90%を越え、電話しようと思う生徒は中学1年生から、実際に電話をしたという生徒は中学2年生から認められた。大学生等では女子生徒の約半数が電話しようと思っており実際に電話をした女子学生は30%以上であった。しかし、電話をするときの人数は複数の場合が多く、必ずしも一人でテレクラにアクセスしているのではないことが明らかになった。また、電話をする回数も複数回が多く、一度アクセスすると繰り返し利用している、すなわち、テレクラは現代の若者にとって遊びの一つである可能性が示唆された。実際にテレクラで知り合った人とあったと答えた女子生徒は中学3年生3%、高校2年生女子4%、大学生等女子3%、社会人20代女子は9%であった。しかし、「遠くから見ただけ」というのはその数倍もあり、相手の状況では実際に会う可能性があることも明らかになった。テレクラに関する情報を得る手段としては看板、ピラ、友人、雑誌が多く、特に年齢、学年、職業等で差は認められなかった。

一般にテレクラは性被害の温床として認識され、教育に当たっては「テレクラに電話しないように」、「テレクラを利用するな、利用すると被害に遭う」といういわゆる禁止、脅し教育しか行われていないと思われる。今後は「このような対応から安心させて誘いをかけてくる」といった実態に即した対応が必要であると思われる。しかし、今回、調査をする際に中学、高校で校長、教頭、教員と面接する中でも、また、アンケート調査の結果からも、指導的立場にある教員や保健医療関係者の多くは実際にテレクラにアクセスしたことがなく、利用の実態、利用者の心理や意識に関して、更なる調査が必要と思われる。

2. テレクラの利用に関する実態調査

【目的】

テレクラに関するアンケート調査の結果から、指導的立場にある教員や保健医療関係者の多くは実際にテレクラにアクセスしたことがなく、利用の実態、利用者の心理や意識に関して、更なる調査が必要であることが明らかになった。今回、テレクラを実際に利用した経験がある若者を対象に聞き取り調査を実施し、テレクラ等の利用方法、利用の実態、利用者の心理や意識等を確認した。

①テレクラ等の利用方法の実際

【方法】

エイズ関連のボランティア団体に所属する大学生等が直接テレクラや伝言ダイヤル等にアクセスする、あるいは実際にテレクラを利用した経験がある友人・知人等からテレクラの利用方法を聞いた。また、インターネットに流されているテレクラ等の情報を分析した。

【結果】

全体

18歳未満禁止・援助交際目的はお断り、もある。→事前に年齢を確認し、プッシュ信号で振り分ける

料金

男性は有料、女性は無料が原則。

アクセス方法

女性は自宅、公衆電話、等から。しかし、フリーダイヤルのための携帯電話、PHS（ピッチ）からはアクセスできない。

営業形態、利用・アクセス方法

テレクラ

男は店舗に出向き、利用料金を払って女性からの電話を待つ。待機中はテレビ等で時間をつぶす。

ツーショットダイヤル

テレクラの無店舗版。

男はプリペイドカードを購入、あるいは事前に料金を振り込み、その時間分女性と話すことができる。

①ねるとん（現代版フィーリングカップル1対1）

②テレフォンセックス

③指定なし、が選べる相手を変えたいときは「#」、コースを変えたいときは「*」を押す
→切られないようにと言う緊張感がお互いにある

伝言ダイヤル

①伝言ダイヤル（0120-〇〇〇-〇〇〇）にかけ、オープンボックス番号4桁（〇〇〇〇）、と暗証番号4桁（〇〇〇〇）を入力する。メッセージの有効期間は5日間。

②自分の自己PRを録音する

③その録音テープ、自己PRが流れている電話を聞いて、気に入ってくれた人から直接ボックスにメッセージが入る。

男は事前に利用料金を振り込み（例1時間6000円）、その時間分女性のメッセージを聞く、あるいは自分のメッセージを録音することができる。

テレフォンレディー

サクラ。テレクラ等を利用する女性が少ない場合、店側が女性アルバイトを雇い（図1）女性側の利用者を装って対応させる。

伝言ダイヤルでのやり取りの実際

モニターが入れたメッセージ

「22歳、女子大生です。彼と別れたばかりで寂しいので、よかったらメッセージください。166cm、ぽっちゃりしてます」

実際に入ったメッセージ [モニターの印象]

・もしもし。なんとなくメッセージ聞いて気になったのでメッセージを入れます。携帯番号は〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇〇です。TELください。

・ぽっちゃりしている人好きです。デブ専です。口でしてくれる女の子、車の中とかでね、してくれたらうれしいです。よかったらメッセージ下さい。

・性感マッサージ等の男性版ホテル。1時間1万円から。ホテルでも自宅でも派遣OK。3Pもあり。

・単身赴任中。最近満足のいくセックスをしてないので相手してくれる女性募集中。

・経験ないので教えてくれる人、メッセージ下さい。

・メッセージ聞きました。突然ですがスワッピングに興味はありますか？彼氏と別れた悲しみとかもふっとんで忘れちゃいますよ。ぜひお返事待ってます。[オジさんばい声。ネクラ。]・46歳のおじさんでよければ遊んであげますよー。仕事は営業なので昼間も会えますよ。伝言待ってます。

[エロジジイというカンジ。ぼそぼそしゃべってキモチわるい。]

・メッセージ聞きました。ちょっと前のメッセージなんでもうパートナーが決まっちゃっているかと心配はしていますが・・・私は36歳で結婚もしています。君より14歳も年上なので、そういった意味で違ったお付き合いができるかと思っています。4月から社会人になる、ということで就職の話何日もできたらいいなと思います。返事待っています。[ものすごく慣れているカンジ。口調も軽やか。返事したところPHSの番号を知らせてきた。]

・こんばんは。メッセージ聞きました。僕は丸の内にある某会社に通う28歳のサラリーマンです。大学までずっと野球をしていました。あなたのメッセージを聞いて僕も大学生活を思い出しました。よければお会いしてお酒を飲んだりしたいです。イタズラとかは絶対にしません。信用して下さい。メッセージをくれるとうれしいです。[あんまり慣れていないカンジ。メッセージを返したところ「あなたを信用して携帯の番号を教えます。」ということで番号が入っていた。]

・大学4年と言うことで今はテストも終わってヒマでヒマでしょうがないと思います。ドライブ行ったりカラオケ行ったりしましょう。連絡待ってます。[スケベっぽい声でしゃべっていた]

・32歳の男性です。結婚しているんですけどかまわなければ来週あたり会いませんか。

継続的なやりとりを試みたケース

♂「おはようございます。26歳の男性です。会社に行く前にメッセージを聞きました。僕も彼女と別れたばかりで、声聞いてかわいいなと思ってテルしました。お返事くださるとうれしく思います。」

♀「メッセージありがとうございます。私は学生なので今日は11時半に起きてしまいました。また伝言ください。」

♂「こんばんは。今は午前1時ぐらいです。仕事が遅くまであり返事が遅くなってごめんなさい。僕はおしゃべりが好きな女の子の話の聞いているのが好きなんですが、あなたはおしゃべりが好きですか？ そうだったらうれしいんだけど・・・。もしよかったら気軽なお友達として、お話ししたり、飲みに行ったりできたらなあと思っています。またメッセージ下さい。」

♀「(いつものあいさつ) 私はおしゃべりも飲むのも大好きです。私は〇〇といますが、あなたのお名前と連絡先を教えてください。」

♂「(いつものあいさつ) 私は〇〇といます。連絡先は050-〇〇〇-〇〇〇。直接話ができたらうれしいなあと思います。」

こんな感じで1週間毎日たわいもない会話が交換された。

[メッセージをいれてくれる男性の中で一番好意的なカンジ。朝いちで伝言を聞いてるなんてどういふ人なのか気になる。]

援助交際が実際に行われる可能性を探ったケース

♂「42歳の男性です。昼間でも会えます。おしゃべりしたりエッチしたりしましょう。」♀「援助はしてくれるんですか？」

♂「援助ということでしたが、予算はいくらぐらいを考えていますか？はっきり言ってくれば、考えてみたいと思います。返事待っています。」

[ネクラなエロじじいだ]

伝言ダイヤル常習者とおぼしき男性

男性の自己PRメッセージに

♂「えーはじめて伝言入れます。慣れていないので、女性が何でこの伝言ダイヤルの番号をしるのかよくわかりません。私は38歳のサラリーマンです。妻以外にお付き合いしている人がいないので、まあ当たり前と言えば当たり前なのですが、まじめに長くお付き合いできる女性を探しています。よかったら返事下さい。」

♀「私は22歳の大学生です。私はこの番号を街でもらったティッシュで知りました。年上の方が好きです。不倫の経験もあります。よかったらメッセージをお願いします。」

♂「メッセージありがとう。君がもしすてきな人を思い浮かべていたら僕はとてもそれには及ばないなあ。メッセージに君の好きなタイプ、嫌いなタイプをハッキリ言って下さい。いきなりこんな

ことを言うのは失礼かもしれないけれど、やっぱり長く付き合うにの大切なのは気持ちのつながりだから。もし僕が君の嫌いなタイプに入っていたら、合うことは君にとって失礼なことだからネ。それでは、返事を待ってるよ。」

♀「私の好きなタイプは・・・・・・、嫌いなタイプは・・・・・・です。えーっと海外旅行に2週間行くので、その間連絡が途絶えてしまうのが心配です。よろしければ連絡先教えて下さい」

♂「えーと、連絡先教えてあげます。今すぐという訳には行きませんが。私は明日から3日間仕事休みなので、有意義に使いたいと思っています。」

翌日、男性のPRメッセージの同じBoxナンバーで同じ声の男性が

♂「今日は平日ですが、私は仕事がお休みです。結婚していますが、妻はさっきでかけていってとてもひまです。これから会ってくれる人いませんか。」

と入っていたが♀のBoxにはメッセージが入らず、これで終わりかと思っていたら次の日に♂「きのうはメッセージをいれなくてごめんなさい。急にやらなくちゃいけない仕事が入って出勤してました。」

♀「お仕事ご苦労様です。海外旅行から帰ってきたらまたメッセージ入れます。」

♂「気を付けて言って来てね。帰ってから会えるのを心から楽しみにしています。」

同じ日に男性のPRメッセージの同じBoxナンバーで同じ声の男性が

♂「これから会ってごはんでも食べてくれる人、募集します。」

[全般]

ベル友（ポケットベルだけで連絡しあう、メッセージを入れあう関係）に近い感覚。

【考察】

テレクラは男性が有料、女性は無料であるが、女性のフリーダイヤル（0120-〇〇〇-〇〇〇）には若者の中で利用率が高い携帯電話やPHSからはアクセスできないことは興味深かった。また、男性がアクセスすることが店側の利益になるが、実態としてテレクラの女性の利用者が男性の利用者を下回る結果、いわゆる「サクラ」が必要であり、テレクラ経営者が、いわゆるニセ客を装った相手を雇う必要が生じたと思われた。新聞の織り込み広告に入っていたテレフォンレディー募集の広告からは、在宅で月給15～6万円の収入を得ることが可能であると思われた。

伝言ダイヤルを利用している男性の多くは女性とのセックス、場合によっては援助交際（買売春）が目的であり、伝言ダイヤルがその取引の場になる可能性があることも明らかになった。しかし、テレクラと違い、直接相手と話をするのではないため、自分の好み（？）に応じた相手を選択できるという安心感があり、気軽に利用する可能性があると思われた。

②テレクラ利用者からの聞き取り調査

【方法】

エイズ関連のボランティア団体に所属する大学生等が友人にテレクラを利用した経験の有無を聞き、利用したと回答した人の内、協力が得られた10人（男2人、女8人）に聞き取り方式でアンケートを実施した。

テレクラを利用する動機（複数回等）

	男（2人）	女（8人）
セックスがしたい	2	0
暇つぶし	1	5
誰かと話したかった		4
夜遅く友人に電話できない	1	
さみしい		1
大人ぶりたい		1

特になし

1

利用時間帯

23時～6時	4人
12時～18時	4人
19時～22時	2人

総通話時間

1時間以内	6人
3時間以内	2人
20時間	1人(女)
40時間	1人(女)

通話内容(複数回答、相手からのも含む)

世間話	9人
悩みの相談	1人
SEXの話	5人
会う誘い	9人
その他	1人

具体的な通話内容

事例1(中学生)

18歳とウソをつく。世間話で盛り上がり、今からドライブに行こうと誘われる。「パンティーは何色をはいて行けばイイ？」と聞くと「白かピンク」と答える。横浜アリーナ横の喫茶店で待ち合わせの約束をしたがすっぽかした。大人の人がこんな中学生でも相手にしてくれるんだっていう、なんか不思議な気持ちと大人ってバカなのって両方の感じがした。

事例2(大学生)

「今、一人」「いつも電話でどんな話しているの」「自分を評価すると何点」とか気さくな感じで聞かれる。彼曰く、街でナンパしている時間がなくめんどろ、ツーショットはナンパの手間が省け、暇なときによくかける、と。ナンパがうまい人っていうイメージで会う約束をした(が会わず)。

相手と会った

男のみが会ったと回答

会ったと答えた男の感想等

会うときのこつ

- ①自宅の電話番号を教える(信頼させる)
- ②自宅に電話がかかってくると100%会うことができる
- ③一度会ったら二度と会わない

【考察】

テレクラを利用する女性の目的は暇つぶしや誰かと話したいという場合が多かった。特に、継続的に利用している女性は単に話し相手を求めているだけでそこで知り合った相手とのセックスが目的ではなかった。テレクラ=セックスや援助交際、買春の温床という短絡的なとらえ方では利用者の認識との間に大きなギャップが生じることが明らかになった。

③テレクラで知り合った相手とセックスをした事例

【方法】

エイズ関連のボランティア団体に所属する男子大学生が実際にテレクラで知り合った相手とセックスをした友人・知人に面接し、その詳細を聞き取り調査した。(当時の年齢)

【結果】

事例1（18歳：高校3年生）

友人と2人でテレクラに行く。目的は童貞消失。利用回数は3回目。いつも調子よく話は進むが過去2回は待ち合わせの約束をすっぽかされる。その日の2回目の電話で同じ18歳の女性と当時はやっていたテレビドラマの話で盛り上がり会う約束。駅前で落ち合いそのままホテルに直行。また、会いましょうとは言ったがそれっきり会っていない。

事例2（21歳：大学生）

目的はお金をかけずにセックスをする相手が欲しい。何回も足を運んだが実際に会えるのは3～5%程度。残りは全部冷やかし。20回目に初めてセックスをすることができた。相手は自称24歳、実際は30歳前半。海へドライブし帰りにホテルへ。相手は人妻でセックスが大好きと言う感じ。ポケベルで連絡を取り、その後1回だけセックスをしたが怖くなってやめた。その後、テレクラにコギヤルが増えたためテレクラ利用をやめた。

事例3（25歳：フリーター）

目的は人妻との出会い。午前中に郊外のテレクラに通う。5回目くらいに30代半ばの人妻と意気投合。誘われるままに彼女の自宅へ行きそこでセックス。帰ろうとしたら夫が帰宅したが彼女の「高校の後輩」と紹介され3人で食事をした後に帰った。

事例4（23歳：大学生）

目的はセックス。伝言ダイヤル（プリペードカード式）。3回目に同じ年齢の女性と会う約束をする。世間話から友人の彼女が勤めている携帯電話販売店の同僚と思われた。ドライブの後、ラブホテルでセックス。連絡先を聞いたが教えてくれなかった。友人の彼女にその女性らしき人の身体的特徴を聞くと一致し、しかも当日休んでいたこともわかったがそれ以上深入りせず。

【考察】

男性はセックスが目的でテレクラにアクセスしているが、実際に目的を達成する場合は少ないことが明らかになった。その一方でテレクラで知り合った男性とのセックスを求めている女性も少なくなく、テレクラを出会いの場として利用していることが明らかになった。性に対する認識が変わる中で、テレクラを性被害の温床とだけ決めつけ、テレクラを否定するだけでは問題解決にはならないと思われた。

④テレクラでの会話の実際

【方法】

エイズボランティア団体に所属する大学生、社会人の女性が実際にテレクラにアクセスし、そこで交わされる会話の実態を明らかにした。

【結果】

（会話時間）

・30歳、会社員。自宅から電話。（5分）

年齢は→24歳→若い子はこわいからすぐ切ってしまう。どこにいるの→〇〇→いま〇〇にいるんじゃない帰るの大変でしょう→家が〇〇→〇〇はめったに行かないけど一番最近はおでんを食べに行った→有名なおでんやの話・・・→話が合うね→家に電話してよ、コレクトコールでいいよ。電話番号は〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇。

・35歳、会社経営。（20分）

年は、どこにいるの→〇〇→何をしているの→家に帰る途中→家はどこ→〇〇→仕事は何をしているの→フツの〇L→〇〇じゃ遊べるでしょ→あんまり知らない→飲むの→お酒は好きだけどい

つも友達の家で飲んでて〇〇はほとんど知らない→△△にいいところあるよ→遠いから行かないし、知らない→何をいつも飲むの→ラム、ジン→酒飲むねえ→そんなことない→今日は飲んでんの→夕ご飯のときに少し、もうさめている→明日仕事？→Yes→飲みに行くんなら車出す→家まで迎えに来てくれるならOK→じゃあ30分後に携帯鳴らして、車は〇〇〇（高級外車）のステーションワゴン。目印にハザードランプを付けておく→[実際にその場に来ていたが会わず]

・26歳、歯科医。(15分)

コレクトコールで電話して欲しい→コレクトコレクト電話し直す→飲む人探している→家でバジャマ姿だが〇〇で飲もう、タクシー代は出すから

・28歳、洋服の営業。(15分)

年は、いまどこに→〇〇→何してるの→遊んでたら帰りの電車がなくなっちゃった→じゃあ迎えに行っておあげようか→やったぜ飲みに行こう→服装、髪形、顔は誰に似ている→30分後に〇〇〇辺りで。PHSを鳴らして。車は白の〇〇〇。

テレクラでの誘いの手口

「かわいい声だね」と最初にほとんどの人が言う。

「今暇なの」というと「今日の夜は」って聞かれて「暇です」って答えると「よかったら会わない」と必ず誘われる。

テレクラを利用したモニターの感想

楽しい、はまりそう、気楽、慣れる、思っていたより普通、普通の話しかしなかった、テレクラの出会いもいい、軽い飲み友達ができていい、実生活でも同じことをやりそうでこわい、等であった。

【考察】

テレクラで長時間話をすると男性側の料金が高くなるため、コレクトコールで自宅等にかけて直すことを求めるケースが多くテレクラの利用に慣れていると思われた。

若い世代がテレクラを利用する目的は必ずしもセックスや金銭だけではなく、趣味やレジャーのひとつであったり、暇つぶし、人としゃべりたいということもあると思われた。彼らがテレクラを利用する背景には、出会いがない、本当は友達に話したい、伝えたいことをテレクラで済ませる、さみしい、といった社会背景があることも見逃せない。受験等の競争社会の中、また、コミュニケーションが少なくなっている現在、ベル友（ポケットベルだけの友達）のような人間関係が希薄でもつながりを確認できる手段としてケイタイ・ピッチが利用されている。その延長線上にテレクラがあるとも思われた。

テレクラをきっかけとした交際に対しては、そもそもそのような交際は不潔であると考えている人が多いと思われる。しかし、若い世代は、テレクラの出会いも出会いのひとつ、軽い飲み友達ができていい、というような感覚である。

テレクラからセックスに至る場合には2つのパターンがあった。いきなりセックスにいたる場合と、気が合えばセックスをするというタイプである。前者は双方がセックスが目的であり両者の選択が一致している。後者の場合はテレクラを出会いの場としてとらえており、テレクラで知り合ったカップルが結婚するという事実もある。「テレクラ」という言葉をステレオタイプにとらえると利用者の実態が正確に把握できない可能性が明らかになった。

【結論】

テレクラが悪い、テレクラを規制すればよい、という禁止の発想だけではテレクラを利用する若者の意識との間にギャップができる可能性がある。テレクラを利用した結果、起こり得ることに対する正しい認識や知識がなければ、セックスだけが目的ではない利用者が一転被害者になる可能性がある。禁止するだけではなくテレクラを利用する前に正しい知識を若者に提供することが必要である。

3. 性風俗業界の実態調査

【目的】

性風俗業界はSTDの蔓延の温床であったり、女性が強制的に働かされる場として問題視されることが多い。しかし、その実態を正しく認識している人は少ない。性風俗産業の実態を明かにし、そこに関わる、あるいはそこにアクセスする可能性がある人（男性、女性の両方）に求められている情報について明かにする。

【方法】

性風俗業界に勤務する傍ら、ライター等として性風俗勤務者の健康問題等に取り組む現役の風俗嬢（ペンネーム山口みずか）から、ピンクサロン、等の実態を聞いた。

【結果】

①情報誌（顧客、求人）の存在

性風俗業界に関しては利用者と勤務者双方に対して情報誌が発行されていた。入手方法は一般書店（大手）かコンビニエンスストア（新宿2丁目界限）であった。

顧客を対象とした雑誌で入手できたのは「ナイトイマガジン」（月刊誌：720円）で首都圏及び大都市圏一体の風俗店の状況を網羅していると思われた。内容は店の料金、サービス内容から利用時の割引券まで多様な情報が含まれていた。（図2）

性風俗専用の求人雑誌で入手できたのは「Yukai」（月2回発刊：250円）であった。山口氏によると性風俗業界の女性は転職を繰り返し、また、ビギナー、素人も少なくないためこのような情報誌のニーズが高いとのことであった。給与は日給35000円以上、月給80万円以上、というのが大半であり、年収にすると960万円以上になる。（図3）

②業種解説

性風俗業界には様々な仕事内容があることが明らかになった。

ヘルス（ファッションヘルス、ファッションマッサージ、個室マッサージ）

サービス：口（フェラチオと69）と手を使ったサービスが中心。シャワーを浴びた後、女の子はヌードになり個室で1対1で。

利用料金：30分10000円前後

接客時間：1人当たり30分前後。

給与支払：完全日払い

システム：客1人につき5000円前後プラス指名料1000円前後。

個室サウナ

サービス：個室の中に浴槽とマッサージ台があり、入浴の手伝いと全身を使ったマッサージ中心。

利用料金：サービス内容による。

接客時間：1人当たり60～120分。

給与支払：完全日払い

システム：客1人につき6000円～50000円

SMクラブ

サービス：基本的に奴隷と女王様というシチュエーションのプレイを楽しむ店。

利用料金：サービス内容による。

接客時間：1人当たり60～120分。

給与支払：完全日払い

システム：内容により収入が変わる。

イメクラ（イメージクラブ）

サービス：ファッションヘルスのサービスにOLと上司、先生と生徒、といったストーリーを織り混ぜた内容。

利用料金：45分～60分で12000円～15000円

接客時間：1人当たり45～60分。

給与支払：完全日払い

システム：内容により収入が変わる。ほとんどが無許可営業なので店の移り変わりが激しい。

性感マッサージ（性感エステ、性感ヘルス）

サービス：男性の下半身やお尻へのマッサージが主体で、女の子は裸にならなくてもよい店が多い。男性が体に触れることも比較的少ない。

利用料金：30分10000円～60分16000円

接客時間：1人当たり40～50分。

給与支払：完全日払い

システム：客1人につき5000円～8000円

キャバクラ

サービス：お酒の相手と踊りが基本。フェラチオもある。

利用料金：

接客時間：1人当たり10～60分。

給与支払：週払い、月2回払い等

システム：時給制プラス指名料

ピンサロ（ピンクサロン、サロン）

サービス：フェラチオとキスが中心。制服はミニを中心に全裸の場合もある。

利用料金：30分3000円～10000円。昼間や安い。

接客時間：1人当たり10～60分。

給与支払：週払い、月2回払い等。

システム：時給制プラス指名料。営業許可をキャバレーやパブとして受けているので内装も同様にボーイが常にフロアを行き来している。

ランジェリーパブ

サービス：基本的にはキャバクラ等と同じだが制服はランジェリーや水着。店によっては客のボディタッチもOK。

接客時間：1人当たり10～60分。

給与支払：週払い、月2回払い等。

システム：時給制プラス指名料

ソープランド

サービス：セックス

利用料金：30000円～100000円

接客時間：60分～120分

給与支払：週払い、月2回払い等。

システム：時給制プラス指名料。一応免許上は合法営業。

【考察】

性風俗産業は女性が比較的容易に高収入を得ることができる職場であり、求人誌を発行しても採算が合うことから、そこでの勤務者が相当数いることが明らかになった。実際に勤務している女性によれば、性風俗業界が暴力団等によって支配されているという一般のイメージとは異なり、勤務する側の女性はそれほど危険性を感じていないとのことであった。しかし、同じ店に勤務することは特定の組織との関係が生まれる可能性も否定できず、短期間で店を変える女性が多いとのことであった。

利用する側の男性もまた相当数おり業界の広告誌が複数発行されていることも明らかになった。これらの雑誌には各店の割引券が付けられており、定期的な購読者も少なくないとのことであった。これらの雑誌には多数の女性が顔写真を掲載しているが、モデルとして店の広告を飾ると指名も増え、結果として収入も多くなる。しかし、顔写真を掲載することについて不安がないかとの質問に対しては、実際に勤務する女性はむしろ収入増の方が魅力であるようであった。

山口氏は性風俗産業の従事者自身もHIVをはじめとしたSTDに関しては決して楽観的に考えていないものの、「お金が欲しい」という個人の欲望と「客を満足させろ」という店側の要求との板挟みでコンドームの使用を含めた感染予防対策が十分できていないことを問題視している。山口氏は1996年8月に横浜で開催された「1996 AIDS文化フォーラム in 横浜」で「性風俗とエイズ」のセッションに参加し、性風俗業界の従業員とその利用者に必要な感染予防対策について語っている。今後は性風俗産業に従事する女性の健康づくりの視点からの普及啓発活動が必要であると思われた。

4. 若者の性・セックス・エイズに関する意識調査

【目的】

若者の性、セックス、エイズに関する意識を若者同士の会話の中から抽出し、本音を聞き出すことで、今後の若者に性教育を実施する大人向けの教材とする。

【方法】

エイズ関連のボランティアに所属する大学生が、同じ世代に対して直接ビデオ撮影を行いながら取材をした。取材状況を編集し、若者の所謂生の声を明らかにした。

【結果】

Q1、セックスに関する情報を何から得ていますか？

<女性>

雑誌

進んでいるお友達

マンガ

ビデオ・・・あたしの友達は彼とビデオ見た後に、同じように実践してるよ。

堅い本

テレビ

深夜番組

両親の実践

両親から・・・あんまりはめはずしちゃだめだよって。

<男性>

気が付いたら知っていた。

トゥナイト・・・10チャンネルの深夜番組

エロ本とアダルトビデオ・・・1人Hと知識を深めるために使っている。

毎度お騒がせします・・・(テレビ番組)中山美穂のファンでこれ見て女と付き合いたいと思った。

先生・・・中学の修学旅行のとき、先生が「学んどけ」といってエッチな本を見せてくれた。

友達・・・経験談、自慢話

実践のみ・・・中学のころはエッチな本とかビデオも見たけど、あれは実践には役に立たない。AVは全部演技だから、見過ぎるとちんちんが立たなくなる。たとえ、たっただとしても、いく時は女の子の顔になんてことしたら、女の子にとっちゃあ迷惑な話だよ。でも、この間友達にやってみろ、と言われて飲ましたのね、そしたら何とも言えない征服感があってよかった。びっくりした。女の子は苦いっていった。

明るい性教育っていう教科書

Q2、セックスの時何が気になる？そのために何をします？

<女性>

妊娠・・・ゴム使うけど、その場の雰囲気流されて、まっいつか、って時もある。

・・・ゴム使うけど、たまには使わないときもある。だって、使わない方が私も彼も気持ちいいから。次の生理がくるまで結構ドキドキする。

・・・雰囲気に流されないように気を付ける。

・・・コンドームを使う。つけることはお互いの間で常識。

・・・基礎体温をつける。親に隠れてこそっと計っている。

・・・危ない賭けはしない。

淋病とかクラミジアとかの病気・・・ゴムつけてもらう。

相手と自分が気持ちいいか・・・気心しれてくると何でもできちゃう。セックスをやりすぎない。

<男性>

女の子が痛がらないようにする。・・・前戯に時間をかける。

おちんちんをよく洗う。・・・だって、臭ったらいやじゃん。

速くいかないようにする。・・・前の日オナニーする。

失敗しないようにする。・・・結構緊張しちゃうから。失敗しないように、リラックス、そのためにトークを弾ませる。

コンドームが破れないように気をつける。

妊娠・・・たってきたら、ゴムをつける。

・・・中にはださない。2回目は精子の量が少ないから生です。マイルーラは3回やって3回失敗した。だからその日は外出し。

・・・心配だけど、別にになにもしない。たまに抜くの遅くなって、あっ中にだしちゃったって時もある。子どもなんて、よっぽどタイミングが悪くなきゃできないよ。

・・・直前で抜く！

・・・コンドーム。無い時は外出し。AIDSと妊娠が心配なので必ずゴムします。

おちんちんのでかさ。

・・・気になるけど、どうしようもないよね。

Q3、あなたにとってセックスとは何ですか？

<女性>

愛情

快樂

スポーツ

快樂と義務・・・やりたくない日もたまにはあるけれども、そんなにやりたければやってあげましょうと・・・。好きだからこそ起こる義務感。

気持ちいいっていうのと、抱かれる安心感。精神安定剤みたいなもの。

私のことを好きでいてくれるかどうか確める材料。

子どもを作ることが第一の目的！男にとっちゃあ、3度の飯みたいなものかな。

<男性>

愛情表現のみ。

生きがい

男女にとって一番大切なもの。

自分が気持ち良くなるためのもの。

神聖なるもの

よくわかんない。

快樂と愛

9割の男がそうだと思うけど、快樂。

Q4、AIDSと聞いてイメージすることは？

<女性>

怖い病気

売春

外人としちゃいけません！

血友病っていうイメージ・・・テレビで最近よくやっているから。いやー真面目！

男と女のセックス

同性愛って感じ。

差別と偏見

あんま、ピンとこない。

隔離されて、世の中から取り残されそう。

<男性>

考えたことないから、わかんないなー。

ホモ

外人の女の子
身近かになりつつある病氣
売春
死
薬害エイズ
セックス

Q5、AIDSかもしれないと思ったことは？その理由は？

<女性>

YES・・・相手の人が遊んでそうだったから。

- ・・・セックスの経験があっただれでも感染の心配はあると思う。
- ・・・将来事故で輸血することとかあるかもしれないから、絶対感染しないとはいいきれないと思う。
- ・・・キッズ（映画）を見た時、付合っている人が「おれ、AIDSだからキッズ見にきたんだよ。」っていったので、怖くなった。

NO・・・そんな人とは付合っていません！

- ・・・特定の人としかしてません。
- ・・・危ない人とやってないから。
- ・・・自分で防げるものはすべて防ぎたい。
- ・・・付合っている人と過去のことは腹わって全部はなすようにして、納得してからしています。
- ・・・問題になっているのは知っているけど、自分には回ってこないものだと思っている。

<男性>

YES・・・最近すごく疲れぎみだったので、もしかしたらと・・・。

NO・・・決まった人としかしてないもん。

- ・・・風俗店いかなきゃ平気でしょ。
- ・・・身に覚えがないです。よくわからないけどね。
- ・・・自己管理ちゃんとしています。
- ・・・童貞だから。
- ・・・そんなこと考えたことないよ。
- ・・・身の回りにそんな人いないもん。

Q6、AIDS検査に行こうと思ったことは？その理由は？

<女性>

YES・・・行こうと思ったけど、どこに行けばいいかわからなくて行ってません。

- ・・・行きました。つきあっている人にも行ってもらいたかったから私が行きました。
- ・・・近いうちに・・・知らないで移すのも移されるのもいやだから。次に恋愛するためにも。セックスできなくなるのはいやだしね。
- ・・・今、質問されて、行ってみようかなと思った。

NO・・・検査に行くって周りに知られただけでも怪しまれそうでいやだ。

- ・・・心あたりありません。
- ・・・その疑惑がないから。
- ・・・感染していないと思っているから。
- ・・・考えたこともない。

<男性>

YES・・・Q5と一緒に疲れ気味だったから。

- ・・・心配はないけど、身の潔白を証明するため。
- ・・・タダでしてくれるって聞いたから。

NO・・・陽性でたらいやだからいけない。ピビリ屋さんだから。

- ・・・きっと大丈夫だから。ん？よくわかんないけど、きっと大丈夫だよ。
- ・・・僕はないけど、友達が行った。男の子っていうのもあると思うけど、やっぱり危ないことしたら、行った方がいいと思う。

- ・・関係ないよ。
- ・・検査？どこですか？保健所？保健所は尿検査にひっかかった時に行ったっきり。
- ・・検査って、尿で検査するの？
- ・・童貞だから。

【考察】

同世代の大学生がビデオ面接方式で所謂生の声として調査した結果、映像慣れしている彼等から正直な回答が得られたと思われた。性に関してはオープンであり、当然のこととして受け入れている。その一方で、実際のセックスの場面では避妊やコンドーム使用に関して消極的であることが明らかになった。健康教育担当者が若者の実態を実感する上で参考になるビデオとなった。

今回インタビューを行った大学生は高校時代すでにエイズが社会の関心事になっていた。彼らはセックスに関する情報をあらゆる媒体から得ているが、その情報には不正確なものが多く、AIDSに関する情報も同様であった。正確な情報伝達を、若者がセックスをするという前提で伝えることが必要であると思われた。今回のビデオはその意味でも若者を理解するうえで興味深い内容となった。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



【要約】

テレクラ、伝言ダイヤル、等は中学生から 20 歳代の若者に急速に浸透している。男性はそれらにアクセスするには料金がかかり、利用する目的は相手とのセックスを含めた直接のアプローチであり、援助交際を望んでいる人も少なくなかった。女性はアクセスに費用はかからず、暇つぶしや好奇心が多く、テレクラをコミュニケーションや遊びの手段としてとらえていることが明らかになった。テレクラが諸悪の根源というとらえ方ではなく、テレクラでの会話の実際等を踏まえながら、起こり得る被害を想定した情報伝達が必要であると思われた。

性風俗業界は顧客向け及び求人情報誌を発行するほど利用者と従事者が多いことが明らかになった。また、従業員も STD に関しては情報を必要としているものの、その入手経路が乏しく、これからの対応が必要であると思われた。

若者のセックスに対する意識はオープンである一方で正しい情報を得ていないことが明らかになった。若者がセックスをするという前提で正しい情報伝達が必要であり、若者を理解する一助として若者へのインタビュービデオを作成した。